



教育時事に注目してみると…

☆トピックス 学校教育の役割を明確化～義務教育の在り方 WG 中間まとめ案(中教審)

めざすべき義務教育・学校教育の姿と取組の方向性として…(抜粋)

●公教育としての共通性の担保と多様性の包摂

➡学校を「子供たちが安心して学び、ウェルビーイングを実現できる場所」と位置づけ、公教育としての「必要な共通性の担保」と共に、一人一人の「良さを徹底的に伸ばす」ことへの対応を求めるなど多様性に向けた環境整備が必要。

●児童生徒と教員が集い、共に学び、生活する場としての価値の最大化

➡「魅力ある学校づくり・授業づくり」を推進し、楽しさや期待を感じながら学びに向かう学校づくりを要請。

●生涯学習社会を生き抜く自立した学習者の育成

➡「自立した学習者の育成のため自分に合った学び方こそ身に付けることが大切」と提言。

「学びの主導権」を子供たちに適切に委ねることで、学びを「自分事」として捉えさせ、自発的に学びを深めていく学習活動の展開や、自ら他者と関わりながら参画し、挑戦する場面の設定などを学校教育全般で設定すること。

◎振り返り 学校教育現場におけるジェンダーについて考える研修会【まとめ】

7月21日(金)～9月29日(金)を研修期間として研修を受講していただきました。

事後アンケートにも、任意で協力いただきました。結果について、お知らせします。(抜粋)

○近年、ジェンダーに関することを研修する機会が増えてきました。しかし、ふとした時に「これは差別につながるのではないか。」と感じることもしばしばあります。ジェンダーの本質について改めて学び、どのような意識を持てばよいか本質から考える機会になりました。

○自身が無意識に偏見に気づくこと、教育現場とジェンダーに大きな関わりがあり、見て見ぬふりはできないこと、身の回りのジェンダーに関する型を問い直し、解体し、アンラーニング(学び直し)することの大切さを学んだ。

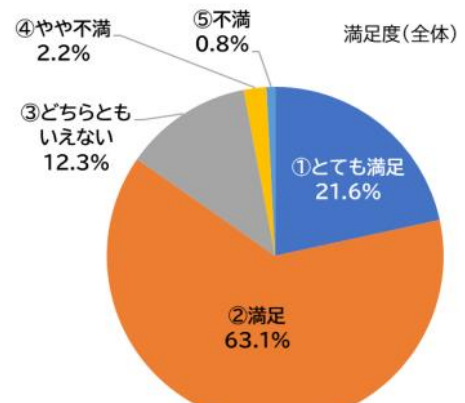
○自分の人生の中で、男尊女卑等の違和感を持って生きてきたので、感じてきたことをすべて講師が述べてくれたように感じ、すっきりとしました。

○職場全体が一堂に会して、ジェンダーについて考える大変良い機会となりました。

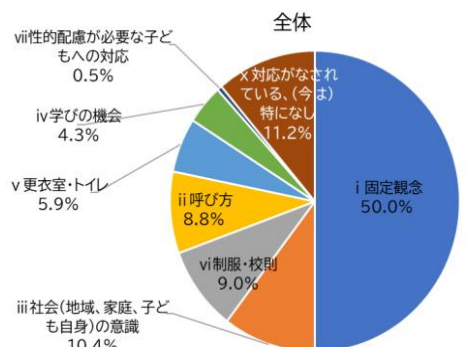
○ジェンダーの視点から物事を考えることで、これまで当たり前と捉えてきたことも立ち止まって考える必要性があることに気づくことができました。

○教員が子どもたちに無意識に与えている環境について、具体的に示されており、自分自身も気づきがありました。

【とりまとめ】地域づくり課ジェンダーギャップ対策室



研修会全体の満足度をお聞かせください。



学校・園において、ジェンダーに関する課題だと感じられること(児童生徒への対応)。